

令和7年度 高松市立庵治中学校 体力向上プラン

【学校教育目標】

〈 自啓・誠実・協同 〉

～自分自身や周囲の人々、そしてふるさとを大切にし、夢や目標に向かって努力する生徒を育成する。～

【本校の現状と課題】

- ① 「体力調査の具体的な数値をもとにした結果」の分析
 - 新体力テストの総合評価 $\{(A+B) - (D+E)\}$ の数値が1年男子以外は上回っている。また、(A+B)の数値が1年男女と3年男子、(D+E)の数値が1年男女で県平均に達していない。運動が苦手な生徒が多いと考えられる。
- ② 「運動に対する意識」・「運動習慣」についての生徒の実態を分析
 - 運動部入部の割合は、男子65%、女子39%と女子の運動部入部率は低い。クラブ等で各種スポーツに取り組んでいる生徒が13%と増加傾向であり、男子87%、女子45%、全体では63%が運動を継続的に行っている。
 - 屢休みのボール貸出しを、運動場と体育館（昨年度は週1回を週2回に変更）で始めたところ、運動をする生徒は全校生の約40%（昨年度約25%）程になり、活発に身体を動かす生徒が増加している。また、他学年との交流も増加している。
 - 家庭でのメディア使用時間は週末や長期休業中の生活において増加傾向にあり、生徒が運動の必要性を認識し、積極的に自ら運動に取り組む姿勢の習慣化には課題がある。

「保健体育の授業での取組」

- ・各自で新体力テストの結果を分析することにより、自ら運動に意識的に取り組むことができるようとする。
- ・各単元の運動が、どの体力を高めることに関係しているか考えさせる。
- ・生徒同士の教え合いや学び合いを大切にし、生涯スポーツにつなげる。

「保健体育の授業以外での取組」

- ・ 屢休みにボールの貸し出しを行ったり、全校生や学級によるスポーツレクリエーションを計画したりし、気軽にスポーツを楽しむことができるようとする。

「縦割りチームで園・小と合同運動会」

- ・今年度2回目となる園・小・中合同運動会を通して、人との交流の楽しさを味わい、生涯に渡って運動に関わる姿勢を身につけさせる。他学年との縦割りチームで先輩からソーラン節を教えてもらったり、各競技種目のこつなどを学んだり、また、こども園・小学生と交流したりすることを大切にする。

「庵治中体験での小中連携」

- ・小学生の庵治中体験では部活動の体験を行い、先輩との交流や、中学校の部活動に向けて夢や目標を持てるよう小中連携を図る。

【 目 標 】

- ① 「新体力テストの数値における目標」
 - 2・3学年において、総合得点を香川県の平均以上にする。
- ② 「運動に対する意識・運動習慣における目標」
 - 屢休みの運動場・体育館利用人数を増やすとともに、他学年の生徒同士でもお互いに配慮しながら主体的に運動に取り組めるなかまづくりを行う。